

海老名市立中新田小学校学校運営協議会 議事録
(令和6年度 第3回)

- 1 日時 令和7年3月6日(木) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立中新田小学校 生活科室
- 3 出席委員 笠原祐治委員長 檀浦かおり副委員長
鍵渡香代子委員 七海勝浩委員 林麻佐美委員
大山圭三委員 久保田祐子委員
宮台理恵委員 石田雅樹委員

渡邊富二夫委員 欠席
安藤信貴委員 欠席
川原綾香委員 欠席

4 会議の内容

(1) 会長挨拶

9月25日の第2回学校運営協議会の後、運動会・音楽会・もちっ子などたくさんの行事があり、子どもたちの様子を見に来て頂いた方も多かったと感じている。私も子どもたちの成長を感じる行事だったと思う。子どもは行事、例えば音楽会を通してクラスの連帯感を感じたりや思いやりの心を育てたりしていくものだ。

後はぜひ廊下の掲示物も見てほしい。1年生の絵はカラフルでそれぞれ個性豊か。6年生の版画も素晴らしいできあがり。

今年度は「地域連携を生かした、子どもの自己肯定感を育成するための学校運営について」ということでやってきたが、どうだったかを本日話し合えればと思う。着実に子どもたちは成長している。19日の卒業式を楽しみにしている。

また、学校教育活動アンケートの話などあるので忌憚のないご意見を願う。

予定されていた卒業式練習は学級閉鎖のため実施しない。卒業式を見て頂ければと思う。

(2) 学校長挨拶

1年間支えていただきありがとうございます。学校アンケートの回答を見ると自分には良いところがある。相談できる人がいると回答した児童が多い。自分が周囲から認められたり、仲間がいると思えたりすることで自己肯定感が上がる。

地域の方が子どもたちを温かく見守って下さっていることがここにも影響しているのではないかと考える。

(3) 今年度の学校教育及び学校教育アンケート 学校教育令和6年度の学校経営方針について

○今年度の学校教育活動及び学校教育アンケート

檀浦	学校教育活動については P T A だよりをご覧ください。 今年度は外壁塗装工事があった。 かかし祭りでは、4 年はかかし保存会の方をお招きしてその思いを伺った。ただかかしを作るだけでなく、地域の活動を支える人の思いに触れることができてよかった。「中小の子がかかしを作るんだったら、かかし祭りをやるよ」と言ってくれる方もいる。児童も「地域の活動にかかわれる大人になりたい」という感想をもつことができた。ただ参加するだけでなく、その行事を通して子どもたちに何を考えさせたいのかをふまえた指導を行わなければならないと感じている。 音楽会について、校内、保護者公開と 2 回行っているが、子どもは保護者公開の時、力を発揮する。子どもは見られるというところで力を発揮する。地域・家庭から温かい目で見てもらうことが何よりの応援。 もちっ子ひろ場について、餅をつくところの人手が足りないというところで P T A もボランティアを募集して協力して行った。また、11 月の就学時健診でもちっ子ひろ場のお便りを配付したり、自治会の回覧板でも通知したりして、新入学予定児にも来てもらった。 P T A は任意であるが一人一人が少しずつ力を出し合うことで、大きな負担なく子どもたちのための楽しい活動ができる。安心して活動できる。というところを周知したい思いもありこの P T A 広報を発行している。 P T A 活動については、中新田小はこの形で続ける。ただ、活動の見直しは行っていく。人と人とのつながりというのは、実際に顔を合わせ、コミュニケーションをとることで生まれるというところを感じる。 海老名幼稚園、中新田保育園、虹の子保育園、木下の保育園の年長児と 1 年生が交流した。1 年生がお兄さんお姉さんになるんだなという気持ちをもてた。また、幼稚園に行ったとき「校長先生だ」と声をかけてもらった。 町たんけんでも、支援学校さん、農業高校さんにご協力頂いた。こういう場面でも顔見知りになれた。 また登下校では自治会さんにはふれあいパトロールで安全を守ってもらっている。もちっ子ひろ場も自治会の方がいないと実施できない。学校だけでは絶対実施できない。大きな力を貸して頂いている。 ひるえびでは海老名高校の部活動で合唱やダンスの発表を行って頂いた。Win-win なら良いなと思っているが、日課が違うのでご負担をかけているのではないかな。
----	---

七海	昼休み前早めに学校を出ている。本人たちは楽しいのではないかな、と思う。イベント等はなるべく行くようにしているのだが、私も合唱部の歌を学校で聞く機会はなかなかない。自分の生徒たちだが感動した。
檀浦	各団体との調整については、コーディネーターの久保田さんありがとうございます。子どもたちもとても楽しみにしていて充実した取り組みになっている。 3年生の町たんけんではえびな支援学校にも伺った。よつば祭にも参加させて頂いた。帰ってきてから支援学校の先生になりたい！という子が何人もいた。地域にこんな学校があると知っていても、中に入ることはなかなか無いのでとても良い経験だった。 また、自分の勤務校とは違う校種を訪問する他校種訪問と言う研修があるのだが、中央農業高校、海老名高校、えびな支援学校の初任の先生が本校を訪れ、一日研修を行った。初任の先生の研修ではあるのだが、その際に感想を頂き本校の職員にも良いフィードバックとなった。 農業高校には1～3年生が伺い、生徒さんに学校を案内してもらったり動物とふれあったりした。特色のある学校がたくさんあることがこの地域の強みだと感じている。

○学校教育アンケートについて

檀浦	学校教育アンケートについて前年度との比較 学習理解について、児童は自分の学年の学習が理解できるように頑張っている」と自己評価している。その一方で保護者は当該学年の学習内容の理解について大丈夫だろうかと感じている面がある。本校の特色でもある中小タイムに関しては、集中して学習に取り組むことができたかと言う点でポイントダウンしてしまった。児童が集中して学習に取り組めるよう工夫していきたい。モジュール学習は学習の基礎基本の習得が目的だが、モジュール学習を行うことで教員の放課後の時間確保もでき、そこで授業準備を行っているという側面もある。ポイントダウンしてしまったことは学校の中では反省すべき点かもしれない。学びづくりグループで検討していきたい。 保護者アンケートの思いやりの心をもった児童の育成についてはポイントアップしている。これは、学校だよりで道徳朝会の紹介や児童の活動など広報した結果かと考えている。先生たちが頑張っていることを伝えることも大切。 基本的な生活習慣について、安全な登下校や・早寝早起き朝ご飯などの生活習慣はアップしているが、全国学力・学習状況調査では情報機器の使い方や利用時間についての結果があまり良くない。 地域とのかかわりについて以前は児童が自覚していない面があった。行事や様々な学習で地域の方が支えてくださっていることを児童にきちんと伝えるようにした。
----	--

	タブレットを使った学習について、友だちの意見を知ったり自分の考えを伝えたりする事ができるようになったというところがポイントアップした。
笠原	もちっ子では、餅つき隊の地域の若手の方がこの活動を発信したいと言うご意見があった。他の場面でもお手伝いに来て頂けたらありがたい。また小中一貫教育の取り組みの認知度が低い。
檀浦	情報発信についての問い合わせはきいていない。小中連携はこれでも少しポイントが上がった。小中連携の授業参観や6年生の中学校体験授業などをお知らせしているが、6年生か兄弟関係がないとなかなか呼んでいただけないのかもしれない。中学生にもちっ子ボランティアの募集をするのはどうかなと思っている。
笠原	有鹿小ではえびなっ子スクールを夏休みに開催していて、ボランティアで中学生が参加している。
久保田	有鹿ではサマースクール、海西中にボランティアの依頼をかけているらしい。中学生とのかかわりを積極的につくっていったらどうか。
笠原	柏ヶ谷小の50周年記念式典では、中学校の吹奏楽部が演奏した。
檀浦	もう少し広い学年に関わる交流の必要がある。
笠原	音楽の鑑賞といえば、2月17日（月）に、4年生を対象に文化会館で神奈川フィルハーモニー管弦楽団の音楽鑑賞会があった。こういう経験があると、子どもたちも実際に見てみたい、聞いてみたいという気持ちが生まれる。
檀浦	行く前は乗り気じゃなかった子も、帰ってきたら「感動して涙がでた。」と話していた。
七海	タブレット活用について、他者の考えを知り自分の考えを発信できるというところが高校でも一番大切。究極のタブレットの使い方だと思っている。これが自己肯定感につながる。友達の意見はどうなのだろう、どう考えたのだろう、と思うことが大事なのではないか。
笠原	先生たちがとても丁寧に児童に接している。授業も楽しくタブレットも含めて、児童は満足感がある。先生が子どもをほめる、ということができているのでは。

(4) 協議 「来年度の学校教育に向けて」

檀浦	グラウンドデザインについて インクルーシブ教育の視点を学びづくりグループでも体づくりグループでももってほしいなと考えている。学びづくりグループでは、授業改善で架け橋プログラムの検討を行う。1年生の学習について工夫できるところがあるのではないかと授業の在り方を考えていく。 体づくりグループでは、保健健康推進、生と性の教育ということで、生きることにつながる教育を行いたい。 架け橋プログラムは幼保にお願いする部分が出てくると思いますのでよろしくをお願いします。
鍵渡	3学期に慌てても仕方ないので、年間を通じて交流したい。幼保は画一的ではないので、園によって違いがある。
笠原	小学校に入ったらこんなカリキュラムでやっていこうというものが具体的にあれば小学校に慣れるのでは。期待感が増すのではないか。
檀浦	入学後の6年生のお手伝いは、年長さんとして頑張っていたのに、また一番下扱い…。こんなことができたという達成感が得られるよう、6年生には「1年生を見守って」と声をかけた。6年生は見守りに行ったり、入学式翌日に自分の教室の場所が分からない子に声をかけたりする等行っていた。 学校探検の2年生の付き添いはどうなのか等、1年生の自主的な活動としてはどうなのか、共に育つ活動にしたい。
笠原	入学すると、いきなり、教室に椅子と机があって、そこに座って前に先生がいて…となるので。
鍵渡	園ではもちろん椅子に座ることはあるが、グループで座る。保育園では円形に座るサークルタイムなどもある。
笠原	5月学級編制という取り組みもあるが、どうでしょう。
檀浦	せっかく新しい環境で頑張っていて、せっかくできた友だちと違うクラスになってしまったと言うのもかわいそう。 よい姿勢が必要なのではなく、ちゃんと聞くことが必要。聞かせるより、聞きたくなるようにすることが必要。そういったことを先生方に研究してほしい。
笠原	今年はちゃんとしつけてないから話が聞けない。と思われてしまうと感じる

	と、1年生の担任は聞けるようにしなくちゃと思ってしまう。先生の意識を変えなければいけない。
久保田	小学校の先生が幼稚園に行って授業参観することはないのか。
檀浦	つい先週1年担任と行ってきた。
鍵渡	幼保は午前中の活動なので、授業のある中では小学校から来るのはなかなか難しいかもしれない。
七海	分析は難しいだろうか？高校では入学に際してなにが不安かを調査している。勉強や人間関係を挙げる生徒が多いので、勉強面で不安にさせることはないようにしている。勉強を頑張りたい子のモチベーションが下がってしまうのが問題ではある。
鍵渡	考えたことが無かった。
檀浦	1年生に入学前に何が不安だったかは聞いたことがある。
久保田	Zoomを使ったり、動画を見たりができるといいのでは、幼稚園では一番年上だったのに小学校で一番下になってしまうのは…。幼稚園でできているということは、そのノウハウがあるはずなので、それを知ることが必要なのではないか。
檀浦	いろいろな負担があったりするので見たほうが早い面はある。また、今は20園くらいから児童が入学してくる。職場の近くの園を選ばれたりしているので本当に広い範囲から入学してくる。
笠原	親御さんにとって一番悲しいのは、学校に行きたくないと言われることだ。それに対して、架け橋プログラムを実践していくと、学校に対するイメージが変わるのではないか。 今の不登校の児童はどのくらいか。
檀浦	数名。
笠原	他校と比べると大変少ない。中新田小の先生方の取り組みによりますね。
鍵渡	幼稚園でも渋りはある。子どもの背景には保護者がいる。そこが難しい。どうして連れて来られないのかな。園でこうだと学校行ったら不登校になっちゃうん

	じゃないかなと心配になる。関連機関につながる子もいる。まずは、子育てに悩んでいるのかな？など保護者支援が必要。発達支援民間施設と連携をかなりとっている。担任だけでは対応できない。みんな喜んで楽しく来てる子ばかりではない。保護者がどうしてもほかの子と比べて悩むのは分かるのだが、「とにかく来てくださいね。」と言うけれど、連れてこられない保護者がいる。どこかにつながってくればよい。
檀浦	運動会の順位について 中新田小は運動会で順位を付けていない。新しく来た職員からは「順位をつけたほうが良いのでは」という意見がでるので、なぜ順位をつけないのかを校内で共通理解するための資料を作成した。保護者からも「弱い子になってしまう」などの意見がある。でも、順位では無く頑張ることにねらいを置いている。
大山	自分たちの頃は、一位になると高い台に上ってとかそういうイメージだったけど、この文章を見てその通りだと思った。今はいろいろな児童がいる世の中なのでこれでよいと思う。
久保田	運動が得意でない子も、運動会が楽しい思い出になるとよい。
七海	高校生になると、順位を付けたがる。順位を決めるルールを作るのも楽しそうにやっている。教員は頑張れば勝てる範囲にいた人たち。私は中新田小の考え方は良いと思う。

(5) 意見交換

鍵渡	もう卒業。運動会拝見してとってもよかった。リレーはごく一部の子だけが活躍するものなのでなくても良い。リレーがなくてさみしいとは思わなかった。
七海	高校は小学校中学校からの積み上げだと思う。コロナのころは、積み上げがなく、人間関係や生活態度の指導が大変だった。やはり積み上げは大切だと思います。
林	中小の子は素直で元気だと感じる。子に応じて先生達がこれまでのあたりまえを見直そうとしているのだと思う。そういうところがインクル。ぜひ支援学校の力も使ってほしい。地域で育てたい。
石田	皆さんにお世話になってありがとうございます。「学校で一番楽しいことは？」と聞いたところ、運動会と答えた子が多くいた。順位がなくても楽しいんだなと思っていることがわかった。自分たちの考え方を変えていかないといけないのだろう。ちゃんと座るとかそういう事が大事だとおもっていたけど、将来的により

宮台	良く成長する指導を考えたい。 七海先生の教員は頑張れば勝てる範囲にいた人たち。と言う言葉が響いた。教師としても、勝利の喜びでは無く、協力する事や頑張ること、それ自体の達成感にこれからは目を向けていかなければならないのだろうと感じた。
久保田	小学校の時に学校が楽しい感覚がなかった。しっかりしなきゃいけない場所だった。学校は楽しいところと先生たちが打ち出しているのが変化だと思う。 「小学校楽しかったー」という感覚を持つことが大切。
大山	先生方が子どもに気を使っている。子ども目線で関心を示してくれる。運動会で、1年生の興味に合わせたマリオダンスをやっていたのが良かった。 物流センターができるようなので、注意喚起の徹底を行っていかねばならない。1年間ありがとうございました。
笠原	ずっと見ていて子どもたちは生きがいやりがいを感じている子が多い。不登校の子が少なかったり、いじめが大きくならなかつたりすることにつながる。自分には大事にされている存在だと感じる事が大事な事。いじめを生まない、団結する力につながるのではないかな。 海老名市が推進しているフルインクルにつながっていく活動をしている。中新田小は指定を受けている。それにふさわしい学校になっているのじゃないかな。 今年度ありがとうございました。運動会あの姿が、一人一人を大事にする。頑張っているところを認めてみていこうよ。という姿だと思う。
檀浦	職員一同子どものために頑張ろうとチームで頑張っている。学校は子どもが来てくれないと始まらない。 そして、皆さんとは、顔が見えるお付き合い、集まっていただけることに感謝しています。知り合いになったところでまたお力をお借りすることがあると思いますがよろしくお願いします。 今年もお世話になりました。子どもが、「学校が楽しい」と言うのは皆さんのおかげです。 ありがとうございました。